

キーワードによる大学GPの整理

環境計画研究室 橋田麻衣

1. はじめに

文部科学省は、大学教育改革を進める目的で、他大学も参考となる教育プログラム(「優れた取組」=「Good Practice(GP)」)を支援する大学 GP 事業を進めた。大学 GP では計 959 取組が採択され、それぞれは「テーマ A」,「特色 GP」,「現代 GP」,「教育 GP」の 4 つの枠組みに属している。大学 GP は、本来他大学にその情報が共有・参考できる理念のはずである。しかし、現状は、各取組内容はおろか、取組名ですら一覧として整理されていない。入手可能な大学 GP 情報は、文部科学省 HP にある取組名やキーワードなどであり、これらは上記枠組みでただ羅列されているだけである。大学 GP を包括的に整理しようとする試みも文献調査を行った限りにおいて見当たらず、結果として大学 GP は他大学に共有・参考される状態ではない。本研究では、この大学 GP を整理・分類することを試みた。

2. 研究方法

研究対象の大学 GP の情報は文部科学省 HP から収集した。各取組の「取組名」と「キーワード」から頻出語句を抽出し、上位頻出語句を質的変数に見立てて、上位頻出語句が各取組の「取組名」と「キーワード」に含まれると「1」、含まれないと「0」とすることにより 0/1 値でコード化を行った。ここで、キーワードのない 170 取組と全て「0」でコード化された 9 取組は数量化Ⅲ類を行わないため、分類へ持ち込む取組数は 780 取組となる。各取組は、上位頻出語句分の 0/1 値を持つが、これを用いて数量化Ⅲ類、続いてクラスター分析を行い、各取組のグループ分けを行った(図 1)。語句抽出では KHcoder、数量化Ⅲ類は Excel 多変量解析、またクラスター分析は R を用いて行った。

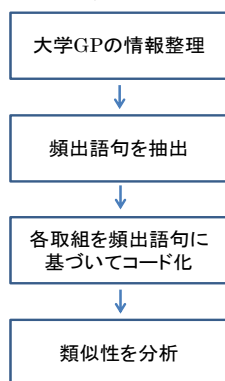


図 1 研究の流れ

3. 結果および考察

検出された上位頻出語句を表 1 に示す。このうち 16 個の上位頻出語句を用いて数量化Ⅲ類を行った。累積寄与率から 8 軸のカテゴリーが検出され、8 軸の解釈を行った。また、これに基づく各取組のサンプルスコアを用いてクラスター分析を行い、20 グループに分割した。分割されたグループのカテゴリースコア平均値を確認することで、先に行った 8 軸のカテゴリーの解釈からグループの特徴づけを行った。これらの結果を表 2 に示す。

表 1 上位頻出語句

順位	頻出語句(個数)	順位	頻出語句(個数)
1	教育(1,299)	12	能力(175)
2	地域(476)	13	キャリア(172)
3	学習(310)	14	評価(136)
4	育成(257)	15	技術(136)
5	実践(250)	16	養成(135)
6	連携(231)	17	システム(125)
7	学生(227)	18	体験(120)
8	プログラム(226)	19	活用(109)
9	環境(197)	20	医療(109)
10	支援(187)	21	授業(106)
11	社会(184)		

表 2 グループの特徴づけ

グループ名	名称	取組数
1	「能力を引き上げる学生支援型取組」	31
2	「学生育成を支援する取組」	57
3	「能力育成を支援する取組」	107
4	「地域連携型の取組」	288
5	「学生養成を支援する取組」	2
6	「養成に関する取組」	87
7	「技術系の取組」	2
8	「学習支援・育成の実践的取組」	30
9	「環境教育・地域連携に関する取組」	80
10	「プログラム型の取組」	4
11	「能力育成型取組」	6
12	「キャリア教育の取組」	63
13	「相互啓発型取組」	2
14	「学生参加型取組」	6
15	「連携型取組」	3
16	「キャリアに関する取組」	1
17	「支援型取組」	3
18	「様々な環境への支援型取組」	2
19	「専門養成型取組」	2
20	「専門技術養成型取組」	4

4. まとめ

大学 GP の各取組を 20 グループに分割した。数量化Ⅲ類から特徴づけられた各グループの名称は、そこに含まれる取組を反映したものであった。目的とした大学 GP の分類は達成されたが、文字データからなる情報をグループ化する際は、語句抽出、抽出された語句の解析採用範囲、グループ分割数に課題が見られた。